

ISO 学生委員会 環境意識継続調査 集計結果

調査期間：2014/4/3～4/18

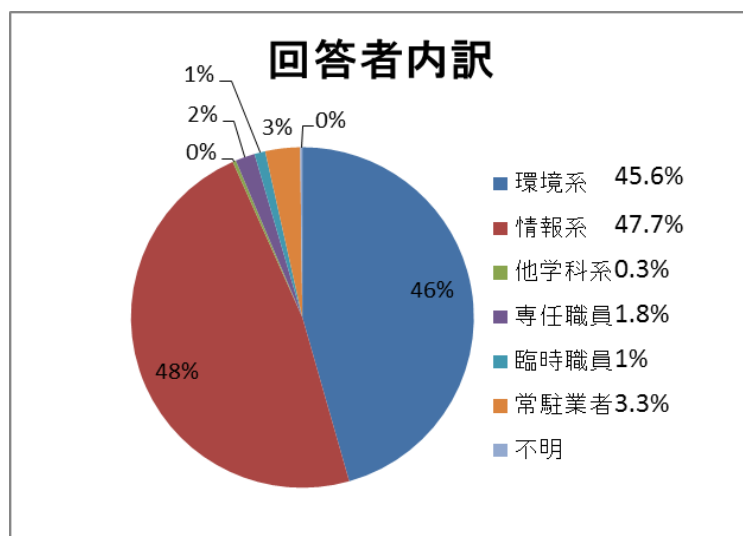
調査対象：東京都市大学 横浜キャンパス全構成員

回答人数：1570 人

●回答者の内訳

回答者の性別	人数	割合	回答率	母数
女性	325	16.9%		
男性	668	34.7%		
未記入	577	29%		
合計	1570		81.6%	1924

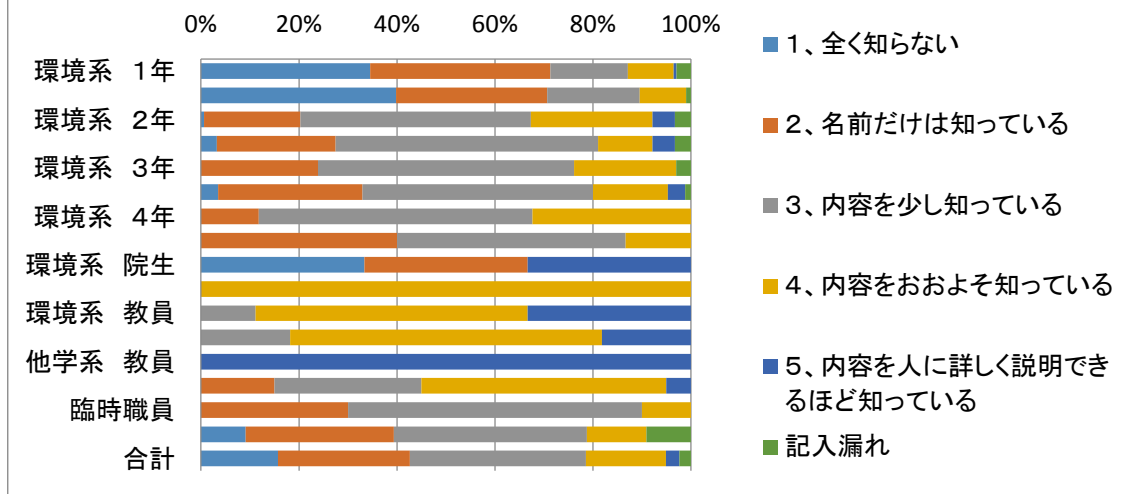
回答者の所属	人数	割合	回答率	母数
環境系	445	45.6%	49.9%	891
情報系	466	47.7%	49.9%	934
他学科系	3	0.3%		
専任職員	18	1.8%		
臨時職員	10	1%		
常駐業者	32	3.3%		
不明	2	0.2%		



環境系回答者の構成	人数	割合	回答率	母数
環境 1 年	171	38.9%	98.8%	173
環境 2 年	153	34.5%	58.8%	260
環境 3 年	70	15.9%	32.9%	213
環境 4 年	34	7.7%	15.6%	218
院生	3	0.6%	60%	5
教員	9	2%	41%	22

情報系回答者の構成	人数	割合	回答率	母数
情報 1 年	201	43.5%	97.6%	206
情報 2 年	153	33.1%	61.2%	250
情報 3 年	82	17.7%	37.4%	219
情報 4 年	15	3.2%	6.4%	234
院生	1	0.21%	25%	4
教員	10	2.2%	47.6%	21

Q1:あなたはISO14001を どの程度知っていますか？



考察

学年が上がるにつれ ISO14001 の認知度が上がっている。これは横浜キャンパスで学生生活を送ることで ISO フォーラムなど ISO14001 に関する行事に参加する機会が増え知識をついたからだと推測される。

また環境系の生徒と情報系の生徒で認知度に差が出ている。仕方ないことかもしれないがこれから情報系の生徒の認知度をあげる活動が必要だと考えられる。

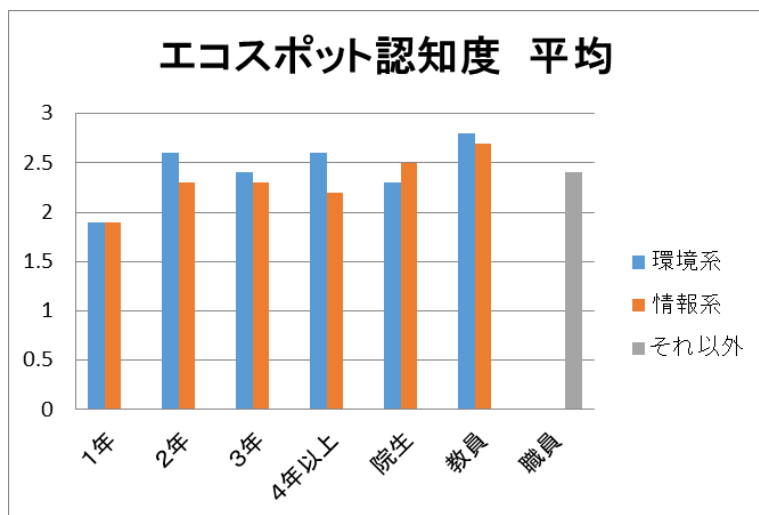
多くの構成員が ISO14001 に対するある程度の知識を持っていると考えられる。今後はより知識を深めてもらう機会が必要となりそうだ。

考察 03__エコスポット認知度 2014 前期

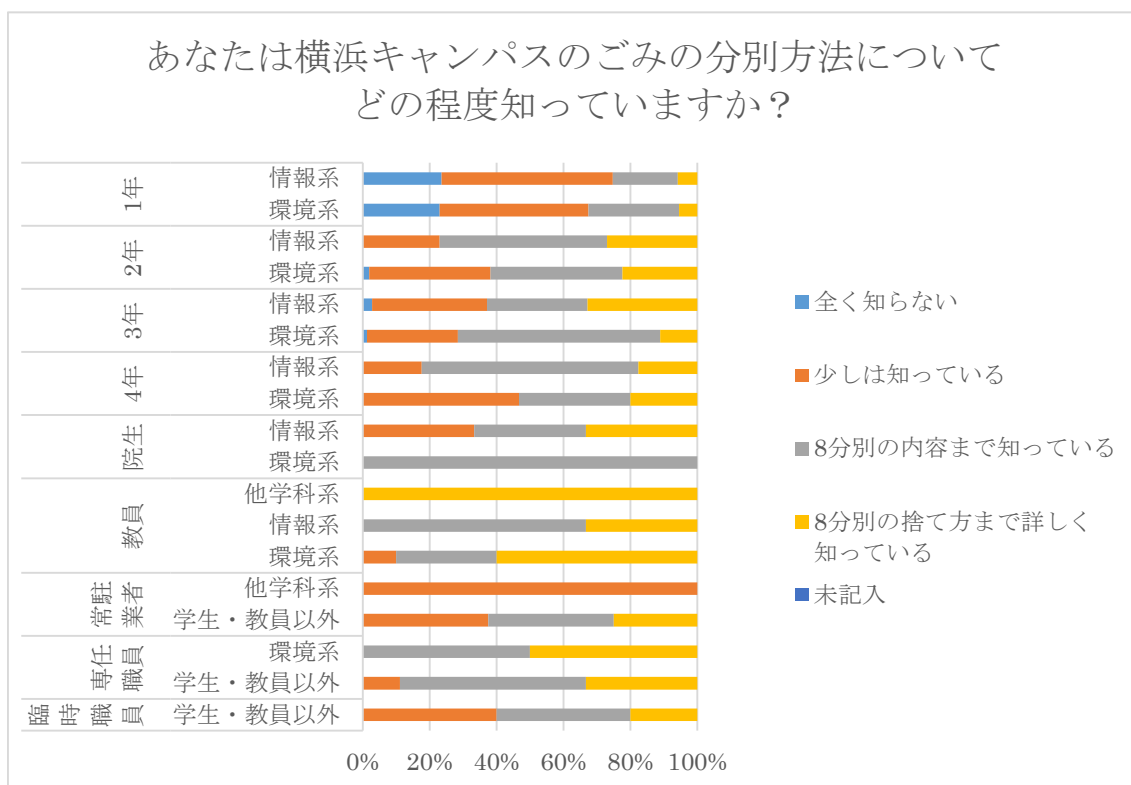
環境教育部会 2年
企画副責任者 緒方 峻

Q エコスポットの認知度		
No.	エコスポットの認知度	全体の平均
1	8分別ごみ箱	2.6
2	外付け日よけ	2.3
3	保水性レンガ	2.2
4	複層・Low-Eガラス	2
5	駐車場	2.5
6	保全林	2.4
7	庇	2.3
8	透水性アスファルト	2.2
9	ソーラーシステム(体育館)	2.3
10	ソーラーシステム(食堂)	2.1
11	ビオトープ	2.4
12	ハイサイドライト	1.7
13	シーリングファン	2

エコスポットの認知度 平均			
	環境系	情報系	それ以外
1年	1.9	1.9	
2年	2.6	2.3	
3年	2.4	2.3	
4年以上	2.6	2.2	
院生	2.3	2.5	
教員	2.8	2.7	
職員			2.4



考察 04_ごみ分別認知度 2014 年度前期



- ・学年があがるごとに認知している割合が多くなっている。
- ・学部と認知度は相関しない

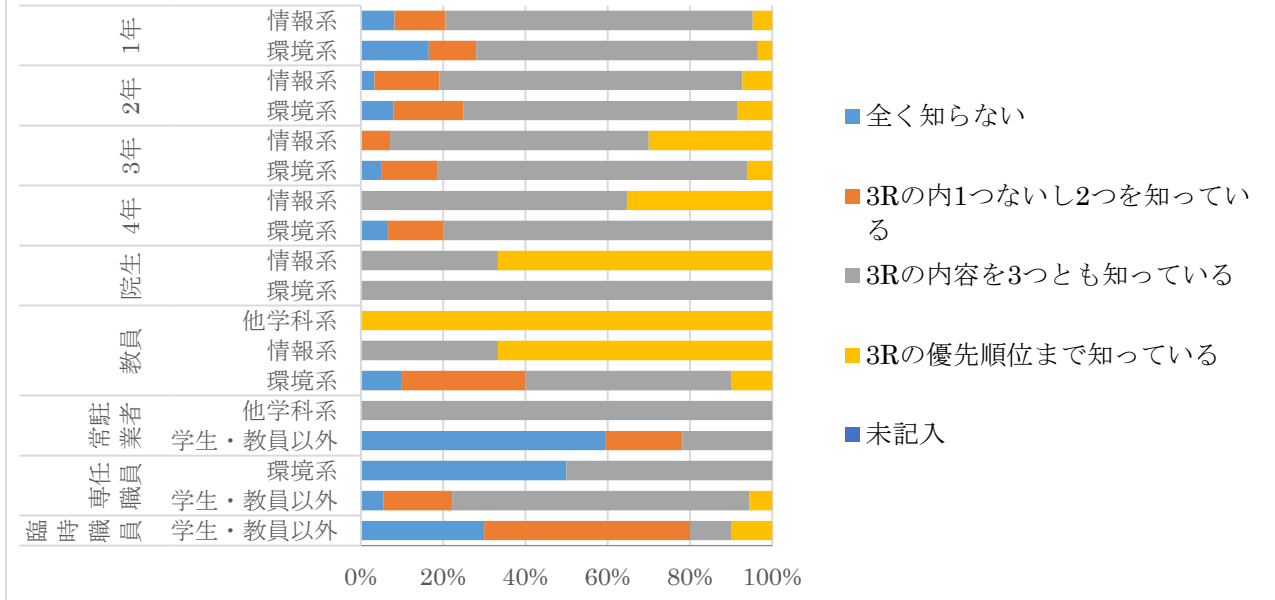
去年の1年（今年の2年）の情報系の「8分別の内容を知っている」「詳しく知っている」の割合が前年度後期調査と比較して20%増加していることから、情報系の認知は増えたと思われる。逆に環境系は微増しているがあまり変わっていない。

去年の2年（今年の3年）は全体的にあまり変わらない。認知度は多少増えたが、まだ全く知らない人もまだ数人いる。

去年の3年（今年の4年）の情報系は「8分別の内容を知っている」「詳しく知っている」の割合が20%以上増加し、全体の8割が認知しているといえる。しかし環境系は逆に「少しは知っている」の割合が微増してしまった。

考察 05_3R 認知度 2014 年度前期

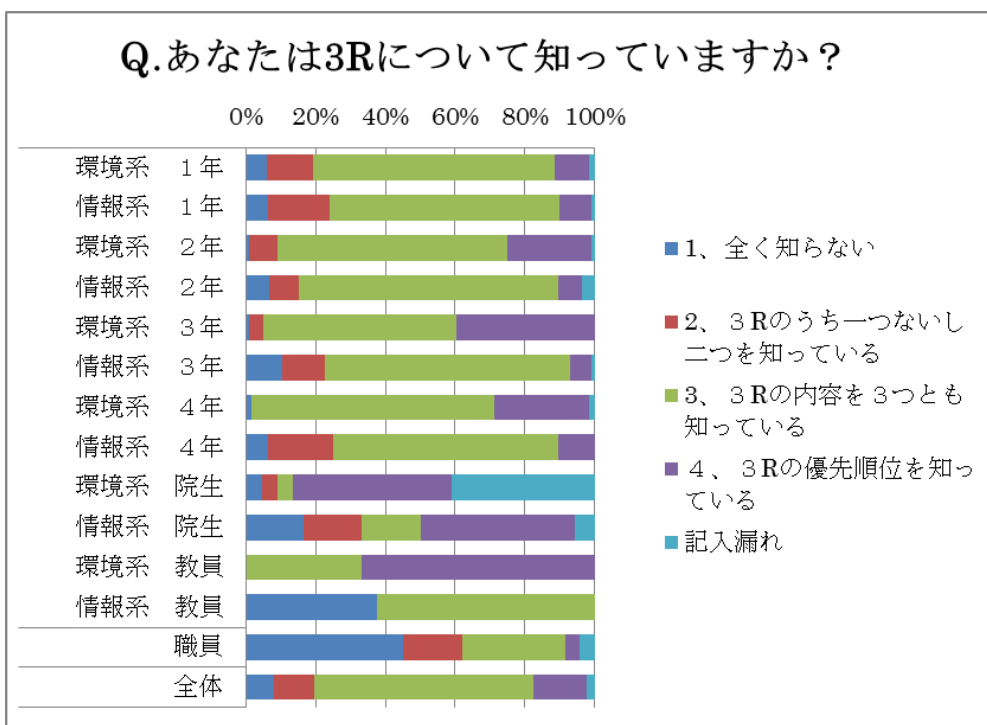
あなたは3Rについてどの程度知っていますか？



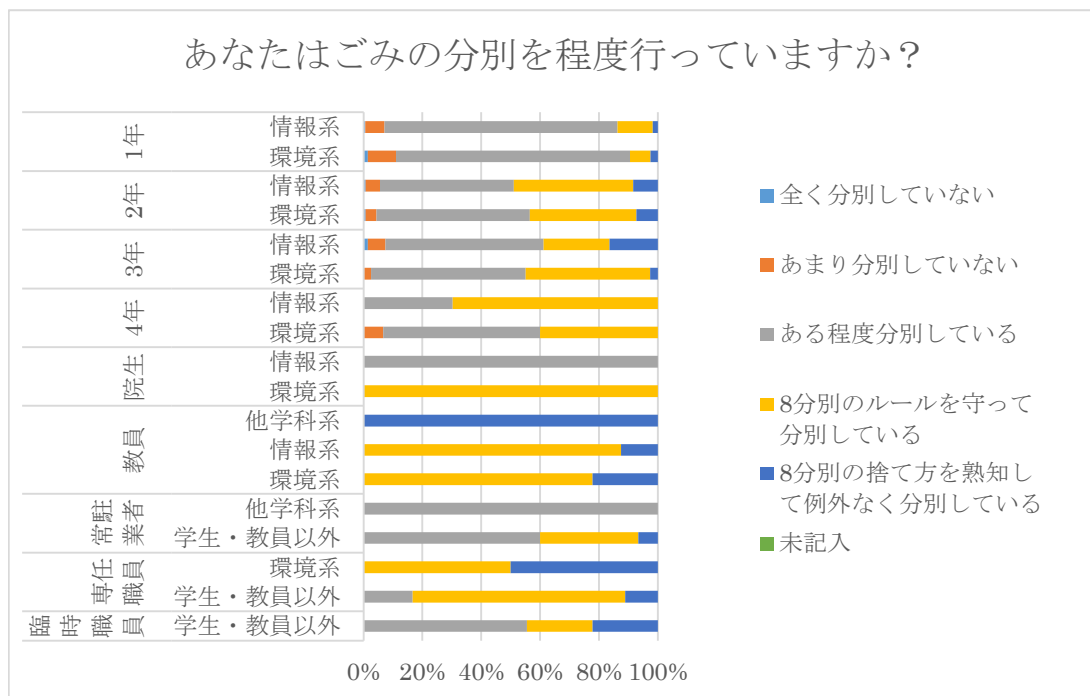
考察

3R は知っているけれども、優先順位について知っている人は数少ない。
 環境系の教員で知らない人がいるのは問題であると思う。
 全体的に 3R のことを学年があがるごとに忘却する傾向がある。

【参照】環境意識継続調査 04_3R 認知度 2013 後期



考察 06_ごみ分別実施度 2014 年度

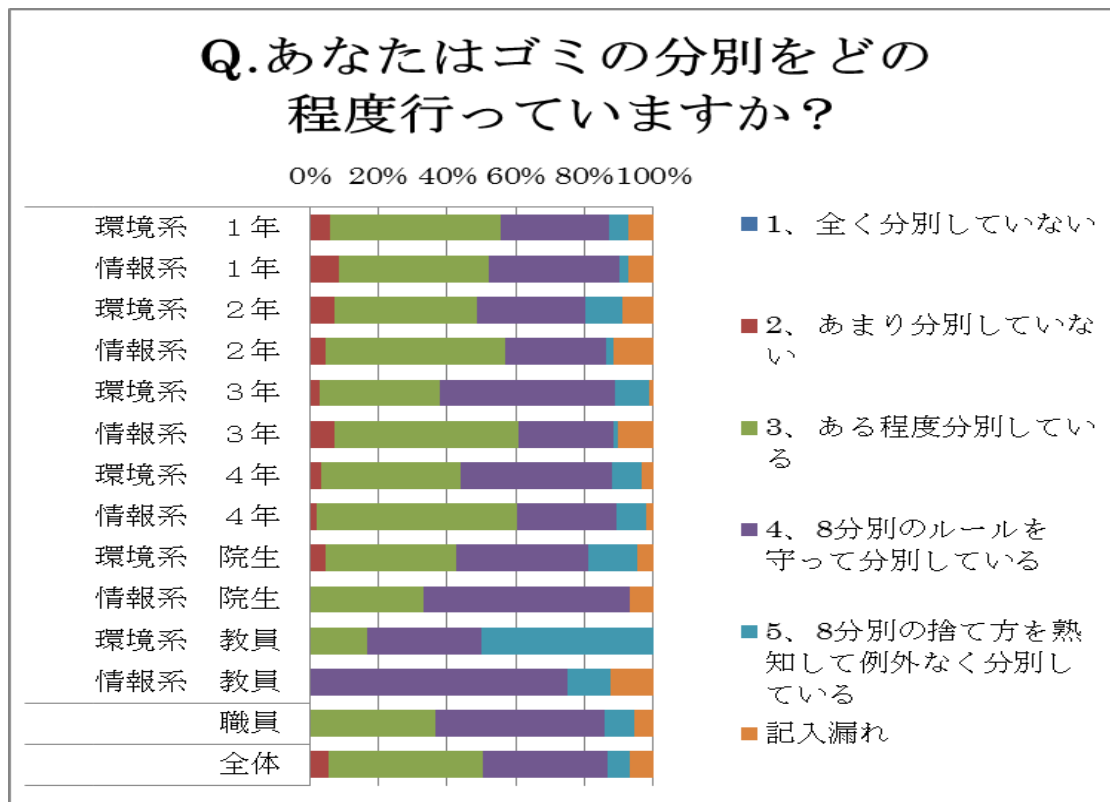


考察

全体的に見て、去年後期は「全く分別していない」人はいなかったが、今年になって2年環境系と3年情報系に現れた。

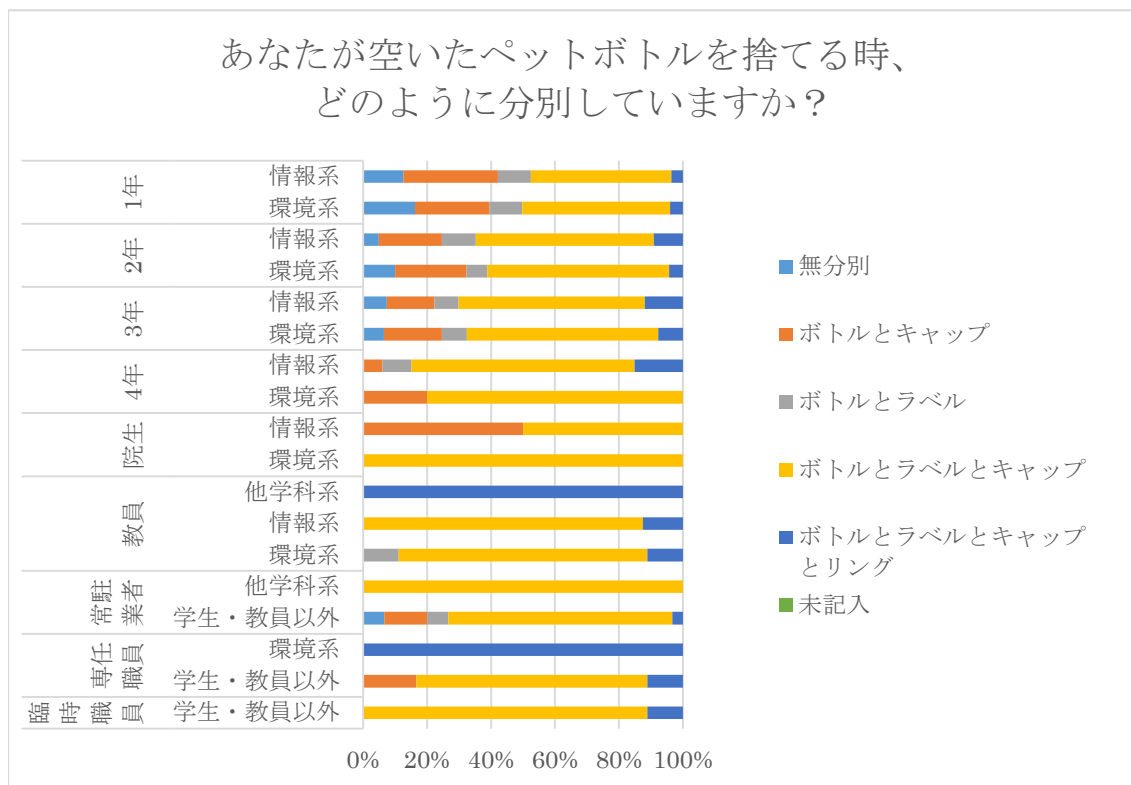
上記の件も踏まえ、前年度後期と比較し、1～3年全体で見ると、分別意識の低下がみられる。

【参照】考察 05_分別実施度 2013 後期.



全ての学年、教員で記入漏れがなくなった。

考察07_ペットボトル分別実施度 2014年度前期



考察

アンケートの結果と、実際に混在率測定したときのペットボトルの分別の結果の集計結果がアンケートの数字よりも多く、合致してしない。

アンケートの結果ほど混在率測定に結果が反映していないと思う。

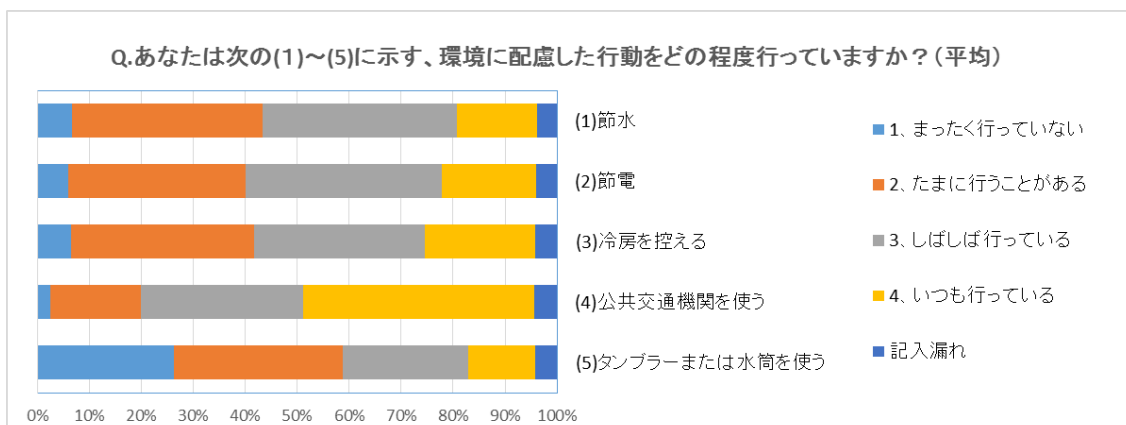
アンケートの結果で見るとキャップはよく回収されている。ボトルとラベルとキャップで分別している人が比較的多い。

学年が上がるごとに細かく分別する割合が増える傾向にある

大半の人がボトルとラベルとキャップに分別している。しかしラベルまで分別している人は極めて少ない。これはラベルまで分別しなければいけないという意識を持っている人が少ないとともにリングを外す習慣がないために、リングの外し方がわからない人が多いことが要因だと考える。今後リングを外してもらえるようにする活動が必要だろう。多くの構成員がボトルとキャップとラベルを分別してくれているのでリングの外し方がわかれば実行してくれると考える。

環境配慮行動

<2014 年前期>



公共交通機関を使う：学校が駅から近いということもあり、公共交通機関を使っている人が多いことが分かる。また、公共交通機関を使っていないと答えた人は一人暮らしなどで学校から家が近いため、徒歩や自転車で通学している人も多いと思う。

タンブラー・水筒を使う：タンブラーや水筒を使っている人の割合が少ないことが分かる。これは大学内に Y ショップや食堂、自動販売機などがあるためだと考えられる。また、タンブラーや水筒を持ってくることは他と比べて手間がかかるし、直接的にエコに繋がるイメージが薄いため実行率が低いのだろうと思う。そのためポスターなどを作り、タンブラーや水筒の使用を啓発することもエコに繋がると思う。

その他全体的に見て、環境に配慮した行動に対する積極性に欠ける部分があるが、普段の生活から節水や節電、冷房を控えるなどなかなか出来ないものだと思うため悪い割合ではないと思う。